

第3回

新宿区次世代育成協議会

平成21年10月29日(木)

新宿区子ども家庭部子ども家庭課

中山会長

先日、10月23日に東京都から平成20年の各区市町村の合計特殊出生率の発表があった。新宿区の平成20年の合計特殊出生率は0.85である。これは前年の0.84を0.01ポイント上回る結果となった。少子化が進む中、合計特殊出生率が上がるということは、大変うれしいことであるが、これはあくまでも少子化の状況を知る一つの目安である。新宿区としては地域の活性化や子育て家庭、若者の課題を的確にとらえながら、このまちで安心して子どもを産み育てることができるように、今後も一層次世代育成支援施策に力を入れていきたい、と考えている。

本日報告する新宿区次世代育成支援計画の素案の検討に当たっては、昨年度の調査設計に始まって、前回の素案についての協議まで、協議会の委員の皆様には本当に活発かつ有意義な議論をいただいたことを心より御礼申し上げます。

この素案には、家庭の経済状況の違いによる子どもの養育環境の差に応じた支援の必要性や、保育園の待機児童の解消、また父子家庭への支援策の充実、子育て支援施策全体で支える子どもの虐待防止など、皆さんからいただいた意見や、その点についての多くの次世代育成の課題と取り組みの方向性が盛り込まれている。

この後、この素案を確定すると、区民の皆さんに広く意見を伺うという制度としてのパブリックコメントが始まる。地域説明会やシンポジウムを通して、区職員が皆さんの地域に伺って、きめ細かに、こういった計画素案を説明する。協議会の皆様にもぜひかかわった立場から、この計画を通して新宿区の次世代育成に対する考え方や意気込みを多くの皆さんに理解いただけるように、区と一体になって、ともにこういったことを地域に発言していただけたらと思う。

事務局

【資料確認】

- ・ 席次表
- ・ 次第
- ・ 平成21年度第2回新宿区次世代育成協議会 論点と対応
- ・ 新宿区次世代育成支援計画（素案）修正版（一部抜粋）
- ・ 新宿区次世代育成支援計画（素案）（パワーポイント資料）
- ・ パブリックコメント・地域説明会・シンポジウムの日程について

それでは、ここからは次第に掲げた議題に沿って進めていく。

「2 新宿区次世代育成支援計画（平成22年度～26年度）素案について」の「（1）次世代育成支援計画（素案）への協議会意見に関する対応」について、はじめに事務局から説明する。

「平成21年度第2回新宿区次世代育成支援協議会 論点と対応」と、「新宿区次世代育成支援計画（素案）修正版（一部抜粋）」を対比していただきたい。

前回の協議会のときに、皆様からいただいた素案についての意見に対して、まず変更したものの、書き加えたもの等について説明する。

33ページ「目標1-2 子どもの生きる力を育てるために」の「就学前教育の充実」について。網がけになっている「小学校以降への接続につなげていく必要がある」となっていたところについて、小学校への接続という言葉は、教育の中で使っているものであるが、接続につなげていくということが重複しているのではないかという意見があった。これについては、誤解を避けるために「小学校以降へ結びつけていく」という表現に修正した。

2点目、34ページ「目標1-2 子どもの生きる力を育てるために」の【取り組みの方向】について。「晩婚化・非婚化が進む社会における若者への支援」の中で、「人間力」という言葉を使っていたが、これについては、一般化されておらず、また結婚されていない方は人間力がないのかという誤解を受ける表現であるという指摘があった。晩婚化・非婚化への対応が必要であるということは共感いただいたが、この言葉を避けて別の表現に変えてはどうかということで、ここについては「人間力」を取って、「若者への支援」という提案のように対応させていただいた。

3点目、35ページ「目標1-2 子どもの生きる力を育てるために」の【主な事業】の中で、幼稚園と保育園の連携・一元化、これが26年度目標の欄に23年度までの目標しか記載されていないが、検討するのであれば、それを盛り込んでいったほうがよいのではないかといい指摘をいただき、今後検討を、実際に現在、新宿区第一次実行計画に位置づけられているものに加え、今後検討していくという表現を盛り込んだ。

4点目、43ページ「目標1-3 子どもが心身ともに豊かに育つために」の「心と体の栄養素「食」」の【取り組みの方向】について。食を楽しむ機会の充実と啓発の推進では、保育園と学校のみ取り組みが触れられている。しかし食育は施設別の取り組みだけではなく、家庭やその他の場でも行うことが求められている。その他の取り組みについても触れたほうがよいのではないかという意見があり、取り組みの方向については保健センターや幼稚

園でも実際行っているのので、それらを加えた。また、主な事業についても、その他の取り組みがわかるものを追記した。

5点目、72ページ「目標3 - 3 特に配慮が必要な子どもと家庭のために」の「虐待予防及び被虐待児と家庭」のところ、「保健センター、保育園、幼稚園、学校等の関係機関が連携し合いながら」というところであるが、この例示が区の学校の関係等のものしかなかったが、実際には民生・児童委員の皆様や東京都の児童相談センター等と密接に連絡をとりながらやっているのので、これをきちんと明記するよう修正した。

72ページの子ども家庭支援センターにおける虐待相談の割合で、新宿区の平成20年度の数値を持ってきていた。身体的虐待が約57%というのが、全国平均の35%を大きく上回っており、根拠となるデータで、どの範囲まで身体的虐待としてとらえているかにもよるが、これは気になる数字であるということであった。

これについては、平成20年度の子ども家庭支援センターに寄せられた虐待に関する相談件数をもとに表記をしていたが、20年だけをとらえるとこの数値になるが、19年は、約3割ということで、全国の数字に近い。このような状況があるので、ここは単年度のものを新宿区の虐待の傾向としてとらえるのはやはり適切でないため、ここではこの比率については削除した。

続いて72ページの下の方であるが、「要保護児童、養育支援が特に必要である児童やその保護者及び妊婦の適切な保護を図るため」というところで、「保護」という言葉は、緊急的な一時保護等を連想するというので、実際に保護するケースは一部であるので、表現としては不適切でないかという指摘に対応して、これについては、「対応」という言葉に改めた。

6点目、83ページ「目標4 - 4 もっと安全で安心なまちづくり」の新宿区における子どもの安全を守る取り組みについて。この項目については、地震・火災などから、子ども自身が自分の安全を守る防災のことが触れられていないのではないかと、防災に関する子どもへの教育については一律には行われておらず、学校によって差がある実態があるので、ぜひこの計画に防災も位置づけてほしいという意見があった。

そこで、区では保護者・地域の団体・警察が協力して子どもの安全を守る取り組みを続けていくというところに、消防等を加えた。また、【取り組み方向】の中でも、「安全教育及び学校の安全対策の推進」で、危機から子どもがみずから身を守る能力の育成を図るところに、「災害・交通事故などの危機から」というふうに例示した。

7点目、88ページ「目標5 ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくり推進します」について。この目標はワーク・ライフ・バランスの推進を図る上で大変重要な意味を持っていると思う。89ページの【取り組み方向】における「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けた取り組み」の文章をもう少し充実させられないかという意見があった。

これについては、ワーク・ライフ・バランスの一般的な概念の記述に加えて、具体的な取り組みの方向について加筆した。また、主な事業については、取り組みの方向に対応するように、事業名と事業項目の見直しを行った。

会長

それでは、以上、説明のあった点について、委員の皆さんからの質問や意見をいただきたいと思う。

委員

1点目、素案の82ページと83ページ、論点の対応で6「目標4 もっと安全で安心なまちづくり」の中で、防災という言葉をお願いいただいた。区の安全条例を基本にして、ここは書かれていることだろうと思う。中身を見ていくと、これは防犯が中心に書かれているように感じる。だから当然に、防災ということを行うのであれば、その防災について触れてもいいのではないかと。

2点目、83ページで「災害・交通事故等」という例示について、災害だけで十分ではないかと思う。災害も事故も類似した言葉であるから、あえて交通と言わなくてもいいのではないかと思う。何か特別な理由があるのかということで説明をお聞きしていたが、まさに例示であるならば、「災害など」ということで十分に用は足りるのではないかと。

会長

多くのものを、子どもの現状に喫緊のものを絞って入れていったほうがわかりやすくなると思う。その意味では、例えば、消防、防災についての子どもの現状というのを語るのは、この分量の中では難しいので、このような形で新宿区における子どもの安全を守る取り組みということで消防を入れた。

もう一つ、83ページ「安全教育及び学校の安全対策の推進」について、安全教育、情報モラル教育等により、災害、交通事故などの危機からというのを、交通事故という例示は災害の中に入るということで入れなくてもいいだろうという意見であった。

子どもの、例えば今の死亡事故や傷害事故を考えると、災害というのは自然災害がそんな

に頻発していないし、子どもの場合、交通事故はかなりあるから、やはりこれは例示、分類としては中かもしれないが、入れたほうがわかりやすいのではないかとということで了解していただけるだろうか。

委員

防災の言葉について、今までの部会等でも検討してきた。部会で検討した中身というのはあくまで、区の安全・安心条例を基本とした中で防犯を中心に書かれていたし、検討してきた。そして、この前の審議会でも防災のことが出た。そこに防災が入ってくるならば、頭出しだけ防災という言葉を使うのでなくて、防災について何らかの中身を少しは話をしてもいいのかなと思った。

また、交通事故等は非常に多いから例示で妥当ではないかという意見であるが、交通事故ばかりではなくて、いろいろ子どもたちのことを考えれば、障害のこともあるだろうし、食べる食育のこともあるだろうし、水の水難ということもある。いろいろな事案があると思う。だから、広くとらえてゆとりを持ったほうがよいのではないかと感じた。

会長

意見として伺いたいと思う。

それでは、本日の報告をもって計画素案についてはまとめをさせていただきたいと思う。この先、パブリックコメント等々でも意見を聞いて、それで計画を策定していくので、今、いただいた意見については意見として受けとめをさせていただきたいと思う。

それでは、本日の議題2「新宿区次世代育成支援計画（平成22年度～26年度）素案について」（2）でパワーポイントでの概要説明をさせていただく。

事務局

今後、地域の中で皆様にわかりやすく説明するために、パワーポイントで資料を作成した。きょうは、まだ色の調整とか内容等についても調整をしていきたいという段階のものである。これを見ていただき、意見をいただいて、今後地域に出ていきたいと思う。若干まだ操作についてもうまく連携がとれないところもあるかもしれないが、その辺理解いただき、ごらんいただきたい。

それでは、概要はこちらの画面で、お手元に画面をコピーした資料をお配りしているので、あわせてごらんいただきたい。

1ページ目について。初めに、次世代育成支援計画についての説明である。新宿区次世代育成支援計画とは、新宿区基本構想、新宿区総合計画に掲げた新宿区が目指すまちの実現に

に向けた次世代育成のための分野別計画である。また、次世代育成支援対策推進法に基づく市町村の行動計画としての側面も持っている。

区では、17年度から21年度まで、今年度までを計画期間とする次世代育成支援計画を策定している。本日説明する素案は、来年度（平成22年度）から、平成26年度までが計画期間となっており、現行計画の引き続き5年間の計画として策定するものである。

それでは、計画の基本的な考え方について説明する。まず目的は、この計画をもとに総合的な次世代育成支援に区民の皆さんとともに取り組み、子育てしやすいまちの実現を目指していく。

次にビジョンについて。総合ビジョンについては、現行計画に引き続き、子育てコミュニティタウン新宿とし、総合ビジョンのもとに具体的な4つのビジョンを掲げている。現行計画では3つのビジョンであったが、今度の計画ではワーク・ライフ・バランスが実現するまちを新たに加え、4つのビジョンでこの総合ビジョンを支える形にしている。

続いて、前期計画に基づく実績について。昨年度、区では次世代育成支援に関する調査を実施した。その調査の中で、新宿区が子育てしやすいまちだと思うかと尋ねたところ、就学前児童の保護者で35.9%、小学生保護者で35%の方が子育てしやすいまちだと思うと回答してくれた。この結果は、現行計画の目標値を大きく上回るものだった。平成15年度調査に比べ、子育てしやすいまちだと思う人の割合がこんなにふえたのは大変うれしいことである。

区ではこれまで、次世代育成支援計画に基づき、さまざまな取り組みを行ってきた。保育園の定員拡充や学童クラブの拡充、放課後子どもひろばの整備、幼保連携・一元化の推進によるこども園の開設、家庭で保育している方々のための一時保育の充実、さらに独自の児童手当や子ども医療助成などの経済的支援策の充実など。ここで紹介させていただいているのは一例だが、こうした取り組みが調査結果にもあらわれていると考えている。今後ともさまざまな課題の解決に向けて、引き続き対応をしていく。

続いて、新宿区の子どもと家庭を取り巻く状況について。簡単に説明をする。まず人口について、平成10年から見ると、総人口は増加傾向が続いている。年齢別では、15歳から64歳と生産年齢人口、及び65歳以上の高齢人口の増加が続いているが、ゼロ歳から14歳の年少人口については微増傾向ということで、これについては今後も引き続き続くと推計している。

続いて資料の4ページ。出生数だが、平成3年に2,000人を割り込んだ。合計特殊出生率は東京都平均を下回っているが、平成18年は0.83、平成19年は0.84、20年は0.85と、わずかであるが増加傾向ということになっている。

世帯数の推移については、一貫して増加傾向ということである。一方、1世帯当たりの世帯人員は減少が続いている。家族類型別に見ると、一般世帯の約6割が単独世帯となっている。

次に、最近話題になっている待機児童について。区では定員の拡充や増設等により、保育の受け入れ枠を拡大しているが、待機児童については、平成20年度は4月1日現在で60人、21年度は70人が発生している状況である。

次に仕事と生活のバランスについて。区の調査で、仕事と生活の理想と現実について尋ねたところ、理想では、仕事と家庭生活を同時に重視すると回答された方は59%だったのに対し、現実にはそれができていると回答した人は14.5%にとどまった。このように、仕事と生活のバランスについて、理想と現実の開きが生じている。

続いて、地域別の現状について。地域説明会に当たり、各特別出張所管内別に、人口や主な子育て支援施設の状況、地域別の主な課題の整理をした。これは各地域説明会の中で資料として活用している。お手元の資料では6ページから10ページまでが地域別の課題となっており、本日の画面では例示で見させていただいているが、詳しくは各地域の説明会でさせてもらう。上のほうは子育て支援センターの状況や子どもの状況で、下のほうに地域の特徴を書かせていただいている。

続いて、資料11ページに対応する画面である。基本目標だが、この計画では、子育てしやすいまちを実現することにより、新宿区で子どもを生ま育てたい人がふえていくことを目指している。具体的な数値目標については、前期計画に基づく実績のところで紹介した、新宿区が子育てしやすいまちだと思う人の割合を平成26年度に、就学前児童保護者及び小学生保護者とも45%になることを目指していく。

続いて、施策目標について。今まで述べてきた現状を踏まえ、課題を1つずつ着実に解決していくために、4つの基本的な視点と5つの施策目標を掲げた。それでは、施策目標ごとに簡単に内容を説明させていただく。

「目標1 子どもの生きる力と豊かな心を育てます」について。子ども時代は成長していく土台を築くかけがえのない時期である。ここでは、子どもたちの権利を尊重し、自立して生きていくために必要な豊かな知性・感性・考える力・体力づくり、生活力が育つよう教育環境や育成環境についてまとめている。

それでは、「施策体系 目標1」について。

「1 すべての子どもが大切にされる社会のため」には、子どもの権利や子どもが健や

かに育つ社会基盤づくりについて。「2 子どもの生きる力を育てるために」では、主に教育環境を中心として。「3 子どもが心身ともに豊かに育つために」では、心とからだの栄養素として遊び、文化・芸術、食について現状と課題、及び取り組みの方向等について記載をしている。

続いて「目標2 健やかな子育てを応援します」について。これは、健やかに子どもを生育てられるよう、妊娠・出産・子育て初期の母親と家族への支援や、子どもの成長にあわせ、心身ともに健やかな成長を促すための支援についてまとめている。「1 安心な妊娠・出産からはじめる子育て」では、妊娠期からの支援の大切さについて。「2 子どもの健やかな成長のために」では、母親の心の健康を含めた乳幼児の発達支援や、子どもの成長・発達に応じた健康づくりなどについて記載をしている。

続いて「目標3 きめ細やかなサービスですべての子育て家庭をサポートします」について。ここではすべての子育て家庭が心にゆとりを持って子育てができるよう、多様な子育てニーズに対応したサービスの充実や、保育園の待機児童解消対策の推進、特別保育や学童クラブの充実についてまとめている。

「1 子育て支援サービスの総合的な展開」では、(仮称)子ども総合センターの開設等による子育て支援サービスの充実や、子どもの相談環境のより一層の整備、経済的支援の取り組みについて。「2 都市型保育サービスの充実」では、保育園の待機児童解消対策の推進や特別保育、学童クラブの充実について。「3 特に配慮が必要な子どもと家庭のために」では、障害児等やひとり親家庭、外国人家庭、虐待予防及び被虐待児と家庭への支援について記載をしている。

続いて、「目標4 安心できる子育て環境をつくります」について。ここでは、家庭・地域・学校が手を携えて子どもを育てる取り組みを行うなど、子育てを社会全体で支えあえる環境づくりを進めること。また、子育てバリアフリーの推進や情報提供体制の充実、安全・安心のまちづくりや環境問題への取り組みなどについてまとめている。

「1 みんなで子どもの育ち・子育てを支えあえる環境づくり」では、家庭、地域、学校が手を携えて子どもを育てる環境づくりについて。「2 子どもの笑顔があふれるまちづくり」では、子どもと一緒に外出が楽しめるような施設のバリアフリー化の推進などについて。「3 役立つ情報を届けるしくみづくり」では、子ども自身が必要な情報にアクセスできる環境づくりについて。「4 もっと安全で安心なまちづくり」では、インターネットの課題なども含めた子どもの安全を守る取り組みの推進について。「5 未来の子どもたちへの環

境づくり」では、環境問題の取り組みや、居住環境の整備等について記載している。

「目標5 ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを推進します」について。安心して子どもを産み、子育てしやすい社会の実現には、社会全体で子育てを支援するしくみづくりと、働き方の見直しによる仕事と生活の調和が必要である。ここでは、すべての人がワーク・ライフ・バランスを享受することにより、多様な生き方を実現できる環境づくりについてまとめている。「1 仕事と子育てが調和できる取り組みの推進」では、ワーク・ライフ・バランスの普及啓発や、働きやすさの向上に取り組む企業への支援について。「2 男女がともに自分らしく生きるために」では、男女共同参画に向けた意識の醸成や、多様な働き方を促進するための仕組みづくりについて記載をしている。

最後になるが、新宿区次世代育成支援を着実に推進していくためにと題して、新宿区次世代育成協議会や新宿区次世代育成支援推進本部など円滑に機能させるとともに区民の皆さん、事業者の方々との適切な役割分担、事業推進のための財源問題等の検討も含め、引き続き区を挙げて次世代育成支援に取り組んでいく。

会長

このパワーポイントをもとに各地域で説明していくので、画面の見やすさや情報の内容などについても結構だが、委員の皆様の意見をいただきたいと思う。

委員

スライドの21枚目になるが、4つの視点と5つの施策目標というところのスライドになる。書いてある内容自体に意見はないが、特にこの4つのこの基本的な視点の部分が字も小さく、どちらかというところの目標の1から5のインデックスのような役割になっているということで、余りその視点のところの説明というのは十分なされていないような印象を受けた。この部分というのは、ある意味こういうものを大切にするという、この計画の中の大切な理念のようなものだと思うので、できれば、この4つの基本的な視点というところはスライドを分けて、丁寧に皆さんに伝えたほうが姿勢が伝わるのではないかと感じた。

会長

それではこれは、これからのところに受けとめて、それでスライドを1枚にするなり説明するなり対処する。

私たちの次世代推進計画の基本的な考え方の部分を皆さんにも理解いただけるように修正を図りたいと思う。

当日、地域に出ていったときの資料としては、このパワーポイントと何か資料を配るのか。

どんなものを配る予定か。

事務局

前回お配りしているB4になっていて全体像が見える資料と、それから素案については閲覧という形で皆様にお配りしている。

会長

ということを考えているということなので、一覧のところだと具体的な施策の中身が例示的に載っかってくるということでもあるし、閲覧もその中でしていただけるという、そういう資料提供をしながら説明をしていきたいということである。皆さん、今のパワーポイント、それから資料等についてはこのようなことであるということだが、ほかに何か意見はないか。

委員

パワーポイントの3ページ「前期計画に基づく実績」について。この数字を見ると、15年度の調査、その次に20年度の目標があって、20年度の調査というふうに来たほうが、数字がだんだん上がってきている。このまま見ると、最終的には数字が下がっている感じがするので、調査、目標、調査というふうな形で並べ替えていただければ見やすいのではないかと思う。

5ページ、仕事と生活のバランスと日本語で書いてあるが、これはワーク・ライフ・バランスのことだろうか。

だとすれば、これに括弧としてワーク・ライフ・バランスを入れていただいたほうが、お年寄りとか、まだわからない方にも、ワーク・ライフ・バランスが次に出てくるので連携がとれるのではないかと思う。

会長

15年度調査をやって、21年度として目標はこういうふうに立てた、実績はそれを超えたという意味でいえば、今、意見いただいたような形で、工夫をしてみる。

また、仕事と生活の調和というのを、ワーク・ライフ・バランスという言葉で私たちも使っているし、世の中でもそういった言葉が使われているということで括弧の表示なりにするということで、修正を図りたいと思う。

ほかにいかがか。

委員

前段の実績の数字というところで、パワーポイントを見るときに見やすいように、実績として示してもいい数字はなるべく太字で出していただいたほうが、よりわかるのではないか。

全部の数字をやるということではなく、せめて8、9ページぐらいまでの、具体的に示している数字は、できる限り太字にさせていただいたほうがよろしいかと思っている。

あと、例えば生産年齢人口とか、老年人口というのは、どのぐらいを指すかということを書き込まれていないが、これは言葉できちんと説明した方が、来ていただいている方も非常にわかりやすくとらえられるのではないか。

会長

それでは、その辺については補足を入れるなり、もしくは太字にして見やすくするようにということで修正なり工夫をしたいと思う。

委員

右肩のほうにちょっとしたイラストがあるが、これは大変な工夫であるし、見る側としては意外とインパクトがあるだろうと思う。

そこであえて注文だが、ワーク・ライフ・バランスという形で、父親も育児にかかわるということをこの目標でうたっていて、ここは今回の一つの目玉だと思う。イラストの収集する絵自身が従来的なパターンだから、なかなか絵の図柄がないのだろうと思うのだが、せっかくやるのだから、父親もかかわっているという、父親の姿がどうも子育て云々に見られないというのはちょっと残念だなと思った。

会長

絵がなかなかなくて拾ったという、急いで拾ったというところがあると思うが、でもこういうところでメッセージを発信していくわけであるから、注意深く何とかその辺をやっているんで、これは何としても工夫をする。

委員

先ほどパワーポイントの際に提示する資料というお話があり、14ページの目標、下のほうの目標3の「1 子育て支援サービスの総合的な展開」で、「経済的な支援」というのがある。この資料として具体的に、例えば新宿区で私立幼稚園には入園料補助金8万円が出るとか、そういうチラシを私立幼稚園のほうにはいただいているので、そういったものを配布するとか、先日の区報に出ていた保育園の第3子は無料というような内容を、経済的支援としてやっているということを資料として添えるのはいかがか。

会長

かなり短い説明の中で、今いただいたようなことも非常に具体的にわかってもらったほうがいいわけだが、資料提供としてどの程度できるか。それを検討してみる。

ほかにはいかがか。

委員

四谷地域のところで、ここに書いてある幼稚園、小学校の数というのは公立だけか。幼稚園は、四谷は子ども園が別に記載されているので2になるかと思うが、私立のものも入るのであれば、小学校は4になるのかと思う。

あと、印の四谷ひろばのところだが記載の内容が違うので、できれば、四谷ひろばには地域ひろば、東京おもちゃ美術館、C C A Aアートプラザ、3つの団体が協働しているという形に変えていただければと思う。

会長

四谷ひろばのところの記載について修正をする。

事務局

幼稚園については私立が入っている。小中学校については義務教育ということで、これは公立だけを記載している。

会長

就学前については、私立は本当に全く同じということで、いろいろな施策としても行っている、入れている。

新宿消防署

当日こちらのパワーポイントの用紙は配布されるのか。パワーポイント全般の、グラフ等はおそらく素案からそのまま張りつけただけという感じがする。実際、パワーポイントを見る上で、これだと多分字が全部つぶれてしまっていて見えないという状況で配布されるのかということになるので、例えば、5ページのところで保育の実施人員ということで4,000人だとか書いてあるが、ここら辺の文字とか大きくしたほうがいいのではないか。

例えば、今、500単位になっているが、1,000人、次2,000人というふうなことで、文字の大きさを大きくしていくということは多分できると思うので、そこら辺の検討をしてくれればと思う。

会長

パワーポイントの資料は、これは配布をする。だから、皆さんに十分資料として見てとって、わかりやすいものにしたいと思う。

それでは、皆さんからいただいた意見によってよりよいものにして、地域に出ていけるようにしていきたいと思う。

では、次にパブリックコメント・地域説明会・シンポジウムの日程について、事務局から説明する。

事務局

それでは、パブリックコメント・地域説明会・シンポジウムの日程については、資料のほうをごらんいただきたい。

この計画について、今後新宿区ではパブリックコメント制度で、広く区民の皆様から意見をいただき、最終的な計画にすることを考えている。それについては、単に区報だとかホームページで計画の素案をごらんいただくだけではなくて、今回は各出張所単位でシンポジウムや説明会をしてきめ細かく意見を伺っていきたいと考えている。

このパブリックコメントについては、11月12日木曜日から12月14日月曜日までの期間を設定している。実施方法については、11月15日の広報しんじゅくに掲載させていただくとともに、区のホームページでお知らせをする。そして意見の募集については、郵送、ファクス、電子メール、また子ども家庭課の窓口で受け付けるようにする。

この素案については冊子にして、子ども家庭課、区政情報課、区政情報センターでは配布をさせていただく。

また素案について広く閲覧していただく場所として、この子ども家庭課、区政情報課、区政情報センターのほか、特別出張所、子ども家庭支援センター、児童館、区立保育園、男女共同参画推進センター、図書館、区立幼稚園でごらんいただけるように設置をしていく。また区のホームページでもごらんいただけるようにアップをする。

続いて、シンポジウム・地域説明会のスケジュールについて。まず、次世代育成のシンポジウムであるが、これは11月17日火曜日、午後2時から4時、牛込笹笥区民ホールで行う。テーマは「パパの子育て、家族の子育て ～みんなで子育て考えよう～」である。

そして笹笥地区以外の9の特別出張所単位では地域説明会を、この「2(2)地域説明会(託児あり)」にあるようなスケジュールで行っていく。

日程、曜日、それから時間帯についても、午前、午後、夜という形で、バランスをとりながら企画をした。

この中で11月18日、ここについては、後ほど「区長を話そうしんじゅくトーク」という、区長が地域に出てさまざまなテーマで話をいただく企画をしているところであるが、この中の一つにこの説明会も兼ねさせていただく。ちょうどテーマが世代間交流でつくる地域づくりというテーマなので、そこで次世代の計画、素案についても説明、話題提供しながらやっ

ていくというふうなことで考えている。

それぞれ、シンポジウムの説明会ともに託児がある。また、シンポジウムについては、手話通訳もつける予定である。

2枚目は、先ほど申し上げたシンポジウムのチラシとなっている。

皆様にはぜひ、この説明会にも御参加いただくとともに、お知り合いを誘って来ていただきたい。

会長

お忙しい中とは思うが、この地域説明会、多くの皆さんに理解をいただき、いい意見をいただけるように皆様にもぜひ参加、協力をお願いできたらと思う。意見、指摘等はいかがか。

委員

シンポジウムについて、とても興味深い内容だと拝見させていただいたが、テーマがパパの子育てだが、開催の日程が平日の昼間というのがどうなのか。一番聞いてほしいパパが参加できない日程なのではないかと思う。土曜日とかだったら参加される方も多かったかと思う。あと、企業の方たちもやはり聞いてほしい内容なので、そういう点では休日のほうがよかったと思う。

事務局

本当に土曜日や日曜日に開催できればよかったのだが、全体的な事情でこういう日程になっている。この内容については、終わった後にホームページ等に掲載して、広くここへ来られなかった方にも見ていただけるように工夫したいと思うし、来ていただいた方には家庭や地域に帰って、こういうものがあつたということを経験の、これに来られなかったお父さんにも伝えていただけるような工夫をしたいと思っている。

それから企業については、まだできるかどうかわからないが、企業の時間の中で派遣をしていただけるような呼びかけもしていけたらと思っている。

会長

確かに今、一定規模以上の事業主については、事業主が自分自身で次世代の育成について、企業として努力するための計画を持つというふうになっているので、そういった担当のところであるとか、当事者になり得る方を派遣してほしいとか、そういった働きかけもこれから可能な限りしていきたいと思う。

委員

地域子育て支援センターへも素案をいただくことは可能だろうか。

事務局

もちろん協力いただけるということであれば、置かせていただきたいと思う。

会長

可能な限り広く、多くの区民の方々が閲覧できるようにという形で考えているので、こういったところにも置いたほうがいいのではないかと、それから協力を得られるのではないかと、いうところがあったら、ぜひ担当までお知らせいただけたらと思う。用意をして必ずお届けするので、どうぞよろしく願います。

今回実施するパブリックコメントにより意見をいただいた上で、計画としてまとめ、次回の協議会で報告をする。

次に、きょうはそれぞれの立場から現在の活動の報告や意見、感想、それからぜひ自由な発言等、せっかくの機会であるから、意見をいただけたらと思う。

委員

私は、今期、区民委員として参加させていただいているが、去年からの虐待予防に関する地域ネットワークの部会にも紹介していた家庭訪問型の子育て支援、ホームスタートで事務局長をしており、豊島区の大正大学で講演会をさせていただいたので、関心のある方がいらっしやればと思い、案内させていただいた。

今回は、イギリスで発祥したということで案内していたが、オーストラリアでももう20年継続されており、ちょうどあさってからコーディネーターの役目の方の養成研修を全国の方からお呼びして実施するが、その協力をオーストラリアの方にさせていただくということで、私どもが招聘して、この講演会でもオーストラリアでの子育て支援の状況というお話もしていただく予定である。

ワーク・ライフ・バランスのことと少し関係するかと思うが、オーストラリアでは家庭訪問型のボランティアがいて支援するのだが、父子家庭、お父さんと子どもしかいないという父子家庭にも男性のボランティア、お父さんの経験のある方が訪問するというようなこともされていたり、多胎児の家庭には多胎児を育てられた経験のある方が行くとか、いろいろなニーズに多様に対応できるような側面もあり、ちょうど今回オーストラリアで父子家庭へのサポートというような特別プロジェクトのお話もしていただくような場面があるので、そんなこともあわせて、お越しいただければと思いお話しした。

委員

毎月1回育成会の会合をしているので、こういうものを、会長さんから皆さんに一度お話

していただくと、ただ、そこにあるものを閲覧するよりも、会で一応お話しするということは皆さんがそのことを知るといことで、各地区の方が大勢お見えになるので、より一層こういうものを行っているということがわかってよろしいのではないかと思う。もしそういときにこういう説明会のような資料をいただければと思うが、いかがか。

会長

育成委員会のほうに何らかの形で資料提供したり、それから資料提供するだけだとなかなか伝わらない部分があるので、説明をしてもらえたらどうか。

事務局

育成委員会の会長会については、説明をしたいと思っている。また地区の会合についても、私ども呼んでいただければ、そこに行くという姿勢をとっているので、いろいろなところに呼んでいただければと思う。

会長

ぜひ呼んでほしい。区としては情報を発信しているつもりでもなかなか、本当は届いてほしいところに十分に届いていないということもあるということも感じるところが多い。だから、呼んでいただけるということは、私どもとしては非常にありがたいことであるので、こういう機会があるので、こういう説明をしてほしいというようなことがあれば、可能な限り、日程を調整して出ていきたいと思う。

やはり聞きたいというニーズがあってこそ、うまくコミュニケーションができてつながっていくところがあるので、効果的にぜひともメッセージを発信して受けとめていただきたいと思っている。

委員

こういうことは、そこに置いておいて、見てくれというのでは、人はなかなか見ていただけないので、積極的にこちらから発信することが大事だと思うので、そういうことを申し上げた。

会長

その第1弾として、今回、地域をシンポジウムを含めると10地域全部、回るので、この場合、お客さんにおいでいただかなければ伝わらないというところがあるので、ぜひお手元にパブリックコメント・説明会の日程等もお届けしているので、委員の皆様からもなるべく都合をつけていただいたり、それからそういった関係者の方々を誘っておいでいただけることを、協力お願いしたいと思う。

委員

パワーポイントの資料の6ページから10ページまで地域ごとの資料がある。小学校は地域ごとに分けられており、10地域、出張所単位で地域分けされている。今、学校の適正配置、統廃合などが行われて、結局学区が広がっているのが現状である。小学校以外、中学校でも同じことが言える。

例えば、私は愛日小学校という小学校なので筆筈地域に属するが、江戸川小学校を例に挙げると、筆筈と榎、2つに属する。それから、牛込仲之小学校あたりも筆筈地域と榎、若松あたり、3つに属する学校もある。地域のお手伝いをPTAはやるのだが、行事があればお手伝いに出る。地域が重なっているということは、その手間が何度も何度もふえるわけである。ふえるということはPTAの負担がかなりふえてくるということで、ここ近年、3年か4年ぐらい前から、この地域分けの問題というのを事あるごとに提議しているのだが、これは絶対変えられないというお答えをいただいている。ぜひ、こういった場で、学校の地域分けというのをもう少し明確にしていただけないかというお願いである。

会長

今のお話は、このデータは、その地域に所在するのがどのぐらいあるかということで数を載せている。

いわゆる学校の通学地域というのか、通学地域と特別出張所の管轄の地域が別になっているということでの問題であるかと思う。これについては、年代的に、ある意味で言えば学校のほうが古いのだろう。

会長

学校のほうが結局最初に存在して、それで学区域というのが決められて、新宿区の10の特別出張所の管轄というのはその後から出てきたというところで、これはある意味で言えば、深くて難しい課題でもある。この点については、きょうは意見を受けとめるというか、伺ったという形でよろしいか。

教育長

今、前段の部分は、なかなか整合がとれない。四谷の地域などは本当に出張所の区域と中学校、小学校が一つにまとまっている非常に幸運な地域だと思うが、それ以外は難しい部分がある。

それで今、今年度、PTAの活動をどうしていくのかというのを、社会教育委員の会議などでも検討しているので、今の話は、PTAが地域と結ばなければいけないが、連携する相

手先が複数にあるために、そこがひとつ負担になっているというお話であろうと思うので、そういったところでよく検討し、そして育成委員会などの意見なども聞いていきたいと思っている。

会長

これからも非常に大きな課題であるので一緒に、どうやったら互いに地域で支えたり、効果的にかかわれるかということは長期の目線を持って、現実から検討していけたらと思う。

委員

このたび、10月25日に第5回ハロウィンキッズコンサートを開催した。地域で子育てをとということで始めて、ことしで5回になるがインフルエンザが流行したり雨が降っていたにもかかわらず大盛況で、400人以上のお子様と、たくさん乳母車を押しながら、そして手を引きながら、お父さん、お母さんがついてきてくださった。音楽会が根本的にはそうだが、それを楽しみながら心の温まるような会ができて、5年間続けてきた成果が出てきたような気がする。

そのように、ことし大盛況だったのも、区報に載せていただいたということがやはり影響していたのではないかと思う。それと同時に、新宿区の保育園、幼稚園の絵を、壁に全面に張り出した。それもとてもきれいにかいていただき、一生懸命かいた子どもの力作があった。地域で、民生委員や育成委員会や保護司、地域の人たちみんなで力を合わせたというのが、また大きな力だったと思うので、こういう機会をふやせれば、温かい心の子どもたちを育てることができるのではないかなと思う。

会長

今のお話は、多分この中でもかかわられた方もいらっしゃると思うが、ことしも牛込笹笥のホールで行った。いわゆるハロウィンキッズコンサートとはなっているのだが、参加型のまさに同じ場で子どもと赤ちゃん、小さい子どもたちと若いお母さんや多くの皆さんが一体となって、一つの子育ての、音楽を通しての子育ての広場というのか、そういったことも地域で行われているという紹介であったかと思う。

委員

私立幼稚園は預かり保育などをやっている。どうしても人件費がかさんでいる。言うなれば助成を、手助けをしていただきたいというお願いである。園によっては個々の実情があるので、実態を踏まえた内容で結構なので、何とぞお願いしたい。人件費がかさんで各園厳しいという報告も聞いているのでよろしく願います。

会長

この点についても、私立幼稚園が子育てに教育、保育に果たす役割、大きく状況も変わる中で頑張っていたいただいているので十分検討する。

委員

最初の分科会のときに、地域で何ができるかということで話し合いがあった。話をしている中で、あいさつ運動ということが出てきた。いろいろな話し合いの中で、四谷では何ができるのかということから始まったのが今年は、あいさつ運動で表彰していただき、石原都知事から表彰状いただいたわけだが、こういうネットワークの中で話し合いをするということが、本当に大事なことなのだとということをつくづく感じさせられた次世代の集まりだったと思っている。

区民会議があって、区民会議にも参加させていただく中で、現場はだれが動くのかというところが一番の課題だったところに、地区協議会が各10地区に開催されて、その中で動ける人たちが集まって、その目標が一つになっていったということも、とても素晴らしいことだったと、そういう機会を与えていただき、本当に感謝している。

四谷は、四谷ひろばという跡地の利用の仕方についても検討いただき、2年になる。17年に区のほうから提案いただいてから19年に協議会を発足した。先日、2年目の今後の方針について話し合いをしたところであるが、大勢の方に利用いただき、おもちゃ美術館が入ったことで、小さな子どもから、また地域の中での民生委員、大勢の方々のお年寄りの介護について、介護されないような形でのシニア健康体操とか、いろいろな形での取り組みについて思いが集まった居場所にもなっている。

いろいろなことで、やっぱりネットワークは大事だなと思っているところに、今回、四谷では子育て支援センター二葉のほうに事務局になっていただき、四谷の連絡会、乳幼児支援の連絡会というのも立ち上がった。本当に居場所があることによって、いろいろなことが展開されていき、いろいろな人との出会いがあって、本当にコミュニケーションというのが図られていくのだということを実感しているところである。

おかげさまでお年寄りだけではなく、今、中高大学生の支援もさせていただいているので、子どもたちも地域の中で何ができるのかということを考えてくれる子どもたちが何人か出てきた。いろいろなことで本当につながっていったということが、本当にこの取り組みについて、参加させていただいたことに感謝している。

会長

いろいろな形で皆さんがつながっていただくことというのが、本当に地域の力であり、そして子どもを真ん中に、私たち多くのいろいろな形ができてきていること、本当に私もうれしく思っている。

委員

私自身は、限定した地域の密着というか、全国のNPOの支援を、子育て支援活動を支援している立場なので、どちらかという区と密着とは言いがたい活動であるが、実は新宿区は、そういう全国的ないろいろな子ども向けの活動を支援している、環境学習など、障害児のことやいろいろな種類の子どもに関する全国規模の支援をしている団体が住所を置いていることが多い。

ただ、活動が全国対象ということなので、地域の足元に密着しての活動は少ないものなので、なかなか接点がないと思っている。私自身もつたいないと感じていた。おそらく次世代の今後の中でも、そういった方々の人的なネットワークや足元の新宿区に助けてくださるような要素がすごくあると思っている。

例えば、そういった方々とうまく連携をするための一つの案であるが、そういった団体が事務所一つ構えるのに非常に苦労しており、他区でも小学校の跡地に、市民活動の方に小さい区分けしたようなブースを貸す、というようなこともされている。そういう場所を提供することで、逆に知恵というものを区のために出していただくというような、そんな協力の関係というのもあるのではないかと思う。これは新宿ならでは、全国のそういった活動の方に区でも活躍していただきながら、こういうルートをサポートするというようなこともできたらすばらしいなと思っている

会長

私どももNPOの支援であるとか、いろいろな形で、新宿の中にある力をつなぎたい。それでそういった思いで、この区内に限らず、いろんな活動をされている方々が区内に力を還元していただけること、重要だと思っているので、意見として十分承りたいと思う。

副会長

この問題について、地域という場に、本当に何ができるのだろうかという問いかけは、とても難しいし、一人一人が何が考えられるかということに帰着するのかなと思う。

一方、私ども、行政もそうだし、私もアカデミックな場の中で子どもの発達とか、人間の発達ということを考えてきたが、どうもそれは考える側の視点というものに終始していて、そこをどのぐらい対象に還元できるのか。先ほどの話もそうだが、私は男として生まれてき

て、男で育ってきたということもあるので、もう一つの性である女性の視点、立場というものが見えてこない。そののところをどのぐらい一人一人が考えられるのかということが、この次世代の問題にすごく大事だ。大人の目線だけではなくて、子どもの視線に、目線にどうそれが定着していくのか。その第一歩が、地域の問題ではないのかと考えている。

新宿区は、とても地域と活発に住民とかかわっている区で、これは素晴らしいことだと思うし、それを財産にして、これからもどんどんこの素案と計画が言葉だけで終わらないで、内実ともども発展するようにいろいろなところでともに努力していきたいと思う。

会長

本当にこの協議会というのは、この次世代の育成、計画づくりとあわせて、横の連携が役割でもあるので、それぞれの団体、それからそれぞれの立場でこういった推進に力をかしていただくよう、取り組んでいただけるよう、お願いします。

事務局

次回の協議会は年度末の3月を予定している。

会長

それでは、これをもって、平成21年度第3回の次世代育成協議会を終了する。

午前12時00分閉会